

第 **117** 期

中間報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日



竹内栖鳳《艸影帖・色紙十二ヶ月》のうち「鯛（一月）」

株式会社 **ヤマタネ**



代表取締役社長  
**山崎 元裕**

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は平成27年9月30日をもちまして、第117期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の前半を終了いたしましたので、ここに当第2四半期累計期間の状況についてご報告申し上げます。

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、中国における景気減速懸念とそれを契機とした世界同時株安の進行などを背景に踊り場に入っております。先行きにつきましては、雇用・所得環境の改善傾向が続く中で、各種政策の効果もあり緩やかな回復に向かうと予想されますが、一方で、海外需給の更なる悪化等も懸念されることから、不透明な状況が続くと見込まれます。

かかる状況のもと、物流業界におきましては、国内の荷動きは建設資材等を中心に前年対比やや低調でしたが、倉庫保管残高は高水準で推移しました。また、国際物流に関しては、平成27年上期の貿易統計では、数量ベースで輸出は前年比7.9%増加したものの、輸入

は同3.4%減少となりました。

コメ流通業界におきましては、政府の飼料用米への転換促進施策等による相場の先高感を反映し、コメの取引相場は今年の5月を境に反転上昇に転じておりますが、それまでの下落を取り戻すまでに至らず前年を大きく下回る水準で推移しました。この結果、卸売り各社とも売上高を減らしました。

但し、販売差益につきましては、26年産米の相場変動が緩やかだったことから、大きな差損も発生せず、例年並みの水準となりました。今後を展望いたしますと、飼料用米転換の影響が大きい低価格銘柄に需要のひっ迫感が続くものの、取引価格の上昇は消費の需要減を惹起する懸念もあり、コメ相場は今しばらく不透明な様相を呈すると思われれます。

情報サービス業界におきましては、緩やかながら景気の回復傾向が続く中、マイナンバー制度導入への対応をはじめとした情報管理体制強化の動きや、自然災害が相次ぐ中でのBCP（事業継続計画）への関心の高まり等により、金融機関や自治体を中心に、IT関連投資は引き続き堅調に推移しました。

## 営業の概況

不動産業界におきましては、一昨年を底にして、三大都市圏を中心とした地価の回復が続いております。また、賃貸オフィスビル市場においても空室率は改善し、賃料につきましても、上昇に転じました。

このような状況下におきまして、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、コメ価格の下落を主因に、売上高は260億45百万円（前年同期比1.8%減）となりました。但し、営業利益は、物流部門、情報部門、不動産部門で増益となったことに加え、食品部門でも例年並みの利益水準を確保できたことから、25億41百万円（同11.1%増）となりました。

平成28年3月期の連結業績予想につきましては、コメ価格が反転上昇に転じていることもあり、売上高は527億円（前期比2.1%増）を予想しております。営業利益は、各部門において増益が見込まれることから、48億円（同5.1%増）を予想しております。経常利益は受取配当金の増加や支払利息の減少等により41億円（同9.3%増）を予想しております。以上を踏まえ、親会社株主に帰属する当期純利益は22億60百万円（同10.6%増）を予想しております。尚、配当金につきましては、期末配当金として1株につき4円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月

### 企業集団の部門別営業の概況

#### (1)物流部門

物流部門では、夏場の天候にも恵まれ、飲料・家電をはじめとした主要荷主の荷動きが堅調に推移したことに加え、新規顧客の獲得等もあり、陸上運送・荷役等を中心に売上が増加しました。国際物流は輸入を中心とした通関の落込みにより売上が減少したものの利益面では増益を確保し、海外引越も増収増益となりました。この結果、売上高は106億75百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益は16億25百万円（同8.3%増）となりました。

#### (2)食品部門

食品部門では、量販店・外食向けである精米販売は、前年を若干下回る34千玄米トン（前年同期比3.7%減）にとどまりましたが、一般小売店や他卸売業者向けである玄米販売は、コメの販売価格が低位で推移したことによるスポット的な需要増に加え、外食向けの玄米需要の開拓にも注力し、24千玄米トン（同24.9%増）となりました。この結果、総販売数量は58千玄米トン（同6.3%増）となりました。一方、売上高は、販売価格の下落影響で123億24百万円（前年同期比8.2%減）となり、営業利益は、1億84百万円（同9.5%減）と例年並みの水準となりました。

#### (3)情報部門

情報部門では、棚卸機器レンタル及び代行関連業務が堅調に推移したことに加え、システム開発業務においても、金融機関や自治体を中心とした基幹系システム改修案件等を中心に受注が増加し、売上高は11億52百万円（前年同期比14.8%増）、営業利益は1億33百万円（同66.0%増）となりました。

#### (4)不動産部門

不動産部門では、売上高は18億93百万円（前年同期比横ばい）でしたが、賃借物件であった「朝日コンピュータビル」を平成27年1月に購入したこと等により、収支は大きく改善し、営業利益は9億54百万円（同14.5%増）となりました。

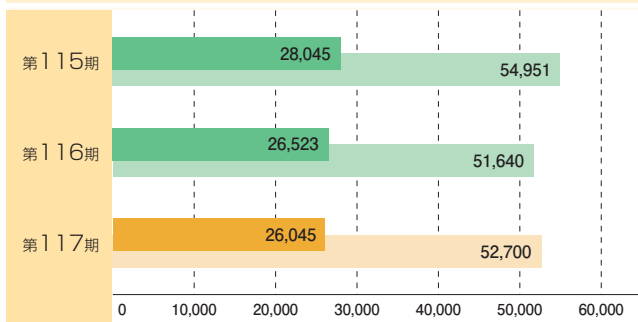
# 財務ハイライト

第2四半期：■ 通期：■ 通期予想：■

<連結>

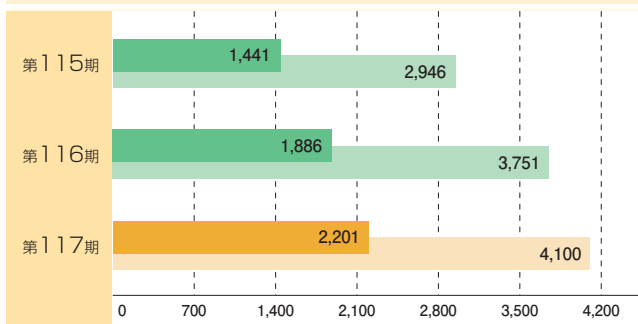
## ●営業収益

(単位：百万円)



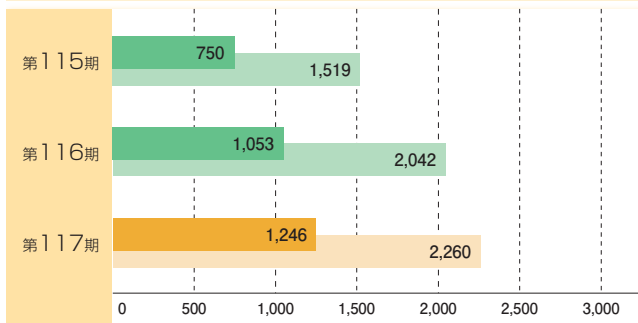
## ●経常利益

(単位：百万円)



## ●親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位：百万円)



# 第2四半期連結財務諸表

## ★第2四半期連結貸借対照表

(平成27年9月30日現在)

(単位：百万円、未満切捨て)

科目	金額
資 産 の 部	
流動資産	9,583
固定資産	81,253
有形固定資産	70,109
無形固定資産	1,248
投資その他の資産	9,894
繰延資産	500
<b>資産合計</b>	<b>91,336</b>
負 債 の 部	
流動負債	12,038
固定負債	46,730
<b>負債合計</b>	<b>58,769</b>
純 資 産 の 部	
株主資本	24,684
資本金	10,555
資本剰余金	3,775
利益剰余金	12,167
自己株式	△ 1,814
その他の包括利益累計額	5,446
その他有価証券評価差額金	3,332
土地再評価差額金	2,191
退職給付に係る調整累計額	△ 76
非支配株主持分	2,436
<b>純資産合計</b>	<b>32,567</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>91,336</b>

### ★第2四半期（累計期間）連結損益計算書

（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

（単位：百万円、未満切捨て）

科 目	金 額
I. 営業収益	26,045
II. 営業原価	22,073
営業総利益	3,972
III. 販売費及び一般管理費	1,431
営業利益	2,541
IV. 営業外収益	121
V. 営業外費用	462
経常利益	2,201
VI. 特別利益	0
VII. 特別損失	1
税金等調整前四半期純利益	2,199
法人税等	775
四半期純利益	1,424
非支配株主に帰属する四半期純利益	177
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,246

### ★第2四半期（累計期間）連結キャッシュ・フロー計算書

（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

（単位：百万円、未満切捨て）

科 目	金 額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,417
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 678
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,899
IV. 現金及び現金同等物の増加額	△ 160
V. 現金及び現金同等物の期首残高	2,376
VI. 現金及び現金同等物の四半期末残高	2,215

### ★セグメント情報

[報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

（単位：百万円、未満切捨て）

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	第2四半期(累計期間) 連結損益計算書 計上額 (注) 2
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連			
売上高							
外部顧客への売上高	10,675	12,324	1,152	1,893	26,045	-	26,045
セグメント間の内部売上高又は振替高	274	0	100	12	388	△ 388	-
計	10,949	12,324	1,253	1,905	26,433	△ 388	26,045
セグメント利益	1,625	184	133	954	2,897	△ 356	2,541

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△322百万円、のれん償却額△39百万円及び未実現利益調整額5百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、第2四半期（累計期間）連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 食品本部 営業部 井村屋株式会社との商品共同開発

この度、食品本部では井村屋株式会社と共同開発した「こだわりのおこわセット お赤飯」の発売を開始いたしました。同商品は、「お赤飯の素」、「無洗米もち米」、「ごま塩」が同封されている商品でご家庭の炊飯器で手軽に本格的なお赤飯が調理できます。また特長としては、「小豆の存在感」、「米のほどよい触感・色づき」とワンランク上の「赤飯」を十分に堪能できる商品となっております。

商品の開発に当たっては、近年増えつつある赤飯需要及び調理の簡便化に着目した上で、グレードの高い商品を開発すべく2014年の6月より両社で検討を開始いたしました。両社の得意とする各々の分野において、原料の吟味・選定を行い商品完成に至りました。

当社取引先量販店や当社ネット販売サイト「楽天米すたいる」でご購入いただけます。商品をお見かけの際には、是非お買い求めください。

食品本部といたしましては、今後とも和食文化の継承や食育といった啓蒙活動とともに事業をより一層拡大すべく邁進してまいります。



## 山種美術館 展覧会情報

2016年1月、山種美術館では新春にふさわしく、めでたい主題や思わず笑みがこぼれる楽しいモチーフを集めた展覧会を開催いたします。本展では、長寿や子宝、富や繁栄などを象徴する幸福への願いが込められた美術に焦点をあて、おなじみの鶴亀、松竹梅、七福神など現代人から見てもラッキーアイテムとなる対象を描いた絵画をご紹介します。また、ユーモラスな表現、幸福感のある情景など、HAPPYな気持ちをもたらす作品も展示します。

※伊藤若冲《群鶏図》、《河豚と蛙の相撲図》、横山大観《心神》、等公開

**展覧会名** 伊藤若冲 生誕300年記念  
ゆかいな若冲・めでたい大観  
— HAPPYな日本美術 —

*The 300th Anniversary of the Birth of Itō Jakuchū  
Jakuchū's Happiness and taikan's Auspiciousness:  
All Happiness Comes to the Homes of Those Who Smile*

**会 期** 2016年1月3日(日)～3月6日(日)

**会 場** 山種美術館 (東京都渋谷区広尾3-12-36)

**主 催** 山種美術館、朝日新聞社

**開館時間** 午前10時から午後5時  
(入館は午後4時30分まで)

**休 館 日** 月曜日(但し、1/4、1/11は開館、1/12は休館)

**入 館 料** 一般 1200円・大高生 900円・中学生以下無料

**お問い合わせ先** 03-5777-8600 (ハローダイヤル)  
URL <http://www.yamatane-museum.jp/>

## 開館50周年記念特別展

開館50周年を記念し、2016年3月から2017年4月まで年間を通して、特別展を開催します。

奥村土牛 一画業ひとすじ100年のあゆみ—

3月19日(土)～5月22日(日)

Seed 山種美術館日本画アワード2016 一未来をになう日本画新世代—

5月31日(火)～6月26日(日)

ほか(※詳細は山種美術館HPをご覧ください)

表紙の絵：竹内栖鳳《艸影帖・色紙十二月》のうち「鯛(一月)」  
1938(昭和13)年頃 絹本・彩色・画帖(色紙12枚のうち) 山種美術館

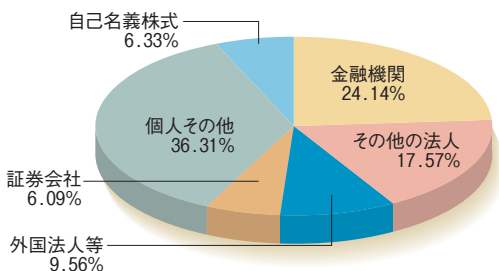
## 株式の状況 (平成27年9月30日現在)

- (1)発行可能株式総数 200,000,000株  
 (2)発行済株式総数 113,441,816株  
 (3)株主数 9,007名  
 (4)大株主 (上位10名)

株主名	持株数 千株	出資比率 %
株式会社三井住友銀行	5,176	4.6
東京海上日動火災保険株式会社	4,787	4.2
山崎元裕	4,083	3.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,773	3.3
SMB Cフレンド証券株式会社	3,000	2.6
清水建設株式会社	3,000	2.6
ヤマタネ従業員持株会	2,408	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,120	1.9
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,021	1.8
東京瓦斯株式会社	2,000	1.8

- (注) 1. 当社は自己株式7,177,444株を保有しております。なお、出資比率は当該自己株式を発行済株式総数から控除して算出してしております。  
 2. 持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。  
 3. 出資比率は、小数点第2位を四捨五入して表示しております。

## 所有者別株主分布状況 (平成27年9月30日現在)



## 従業員の状況 (平成27年9月30日現在)

当社	前期末比	連結	前期末比
326名	10名増	770名	16名増

## 役員 (平成27年11月30日現在)

取締役社長	山崎元裕
専務取締役	高川修治
常務取締役	水戸隆
常務取締役	角田達也
常務取締役	福田尚顕
取締役	鈴木康道
取締役	土屋修
取締役	馬場敏行
社外取締役	齋藤彰一
社外取締役	岡伸浩
常勤監査役	安斉正美
社外監査役	清水満昭
社外監査役	馬場義宣



## 株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人  
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)

(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

### 【株式に関する住所変更等のお手続きおよびご照会について】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記の電話照会先までご連絡ください。

### 【特別口座について】

株券電子化前に株式会社証券保管振替機構<ほふり>に株券を預託されなかった株主様の株式につきましては、三井住友信託銀行株式会社に開設された特別口座に記録されています。特別口座に記録された株式を売却するためには、株主様があらかじめ証券会社に開設した口座に株式を振り替える必要があります。特別口座についてのご照会やお手続きは、上記の電話照会先をお願いいたします。

単元株式数 1,000株

公告の方法 当社のホームページに掲載する。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して公告する。

(<http://www.yamatane.co.jp/>)

上場証券取引所 東京証券取引所

## 株式会社 ヤマトナ

〒135-8501

東京都江東区越中島1丁目2番21号

電話 東京 (03) 3820-1111 (代表)

ホームページアドレス <http://www.yamatane.co.jp/>